

「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」更新案についての地域説明会概要
(聖ヶ丘)

開催日時 平成28年8月31日(水) 19:00~21:00

開催場所 聖ヶ丘コミュニティセンター(ひじり館) ホール

参加者 38人(うち職員・議員6人)

【質疑・意見交換(概要)】 (○…参加者、⇒…市の回答)

○各論45ページ・聖ヶ丘図書館で、策定当初は「空きスペースについては、図書や拠点情報拠点をサポートする民間NPO法人への委託等、民間への賃貸を含めた活用を検討します。」とあった文章が、今回の更新では記載されていない。全くなくなったと考えて良いのか。

⇒政策情報誌(vol.3)の5ページ・「ひじり館・からきだ菖蒲館」の中で、聖ヶ丘・唐木田図書館は、図書館全体の仕組みを見直す中で必要な図書サービスを精査しながら残すと記載した。市民ワークショップでも様々なご意見をいただいた。図書館は高齢者の居場所や相談スペース、世代間交流の場であるとの意見もいただいた。今後、超高齢社会を迎える中で、身近な地域で相談できるような場を作っていきたいと考えている。例えば、図書館で絵本の読み聞かせの際に子育て相談ができる等の機能も考えられる。聖ヶ丘周辺にお住まいの方の地域包括センターは遠い場所にある。できるだけ身近な施設で、相談できる機能ができないかを検討している。

○現在の聖ヶ丘図書館は入口が1箇所しかなく、事故があった時に逃げ場が1箇所しかなく危ない。既存の建物にも手を加えるのか。

⇒どこまで手を加えるかは未定である。施設内の配置を含めて、市民の皆さんと相談していくことになると考えている。

○各論25ページ・聖ヶ丘コミュニティセンターは、とりあえず存続と理解してよいか。

⇒コミュニティセンターは、市施設の中でも最後まで残る施設だと考えている。現在、コミュニティセンターは運営協議会に管理をいただいているが、スタッフの後継者が見つからない、管理が大変との声も聞いた。所管課が各コミュニティセンターの意見を改めて確認したところ、引き続き協議会で管理できると聞いており、引き続きお願いしていく考えである。しかし、施設内にある備品の修繕等は一元管理をすることで、運営協議会の負担を減らせるのではないかと検討している。

○運営協議会は、運営と一部の維持管理を行っているが、施設の維持管理の総体は市が行っている。民間委託をして、市の負担を減らすというのは話が違うのではないか。

⇒次世代の方や現協議会スタッフの負担を減らす必要があり、民間事業者に全部委託するのではなく、備品の修繕等、共通する部分の負担を減らせないかとの趣旨である。

○各論45ページ・聖ヶ丘図書館の「具体的な取組み」欄の表現が微妙である。施設は「存続」と捉えて良いか。

⇒「存続」である。現在、図書館本館再構築基本構想策定委員会で図書館全体の仕組みを検討している。

- 政策情報誌（vol. 3）の5ページ・「ひじり館・からきだ菖蒲館」の中で、「地域包括支援センター等の併設を検討します」とあるが、総論 32 ページ・ワークショップの結果（抜粋）の第4回目で、相談の場・居場所づくりが図書館と急に結びついている。ワークショップ参加者によると、そのような話はなかったと聞いた。市が意図的に入れたのではないか。相談の場、地域包括支援センターの機能は図書館ではなく、コミュニティセンターの役割で、そちらに入れるべきではないか。
- ⇒ワークショップの中で、高齢者・子どもの居場所が必要である、図書館が居場所になっているとの意見をいただいた。地域包括支援センターの機能はコミュニティセンターに入れるべきとのご意見だが、一ノ宮のある関・一つむぎ館にも地域包括支援センターを入れる検討をしている。聖ヶ丘地区の方は、地域包括支援センターが遠いことから、もっと身近な場所に必要との視点のご理解いただけるのではないか。居場所や相談できる場として、様々なコラボレーションで機能を持たせられないか検討している。
- 現在の想定では、地域包括支援センターの床面積はどのくらいの規模か。
- ⇒具体的な想定はしていないが、現在あるセンターは、机2・3台程度の事務スペース、相談スペースで、家で例えると、おおよそ10畳位のスペースである。
- 拠点機能とランチとしての機能というイメージになるのか。
- ⇒地域包括支援センターは、コミュニティエリア10のゾーニングのうち二つのエリアを一つとして、拠点とランチ機能を配置できないかを検討している。ランチ機能であればコンパクトにできる。気軽に行ける地域に相談できる機能を持たせたいと考えている。
- 運営事業者は決まっているのか。
- ⇒運営事業者まで決まっていない。超高齢化に向けて準備をしていきたいと考えている。
- 聖ヶ丘図書館の存続は、市としての考えと捉えてよいか。
- ⇒市としての考えである。現在、多摩市の図書館は本の住所地がなく、返却された地域図書館で返却された本を所蔵することから、シリーズものであっても同じ場所にはない状況におる。図書館全体の仕組みを見直す方向で検討している。
- 「存続」と言っているが、地域図書館の規模を小さくして貸出機能だけにしないか。
- ⇒貸出だけではなく、様々な機能を持たせながら存続する方向である。ただ単に、配本・貸出だけならば「存続」とは言えない。
- 図書館関係の説明会は参加者が多いが、本日の説明会は参加者が少ない。もっと早く、市民に知らせるべきだったのではないか。
- どのように市民に周知したのか。自治会・管理組合の回覧だけでは不足である。市民に知らせようという熱意が感じられない。
- ⇒周知不足とのご意見はお詫びする。公共施設に関する全体の考え方は、政策情報誌を全戸配布するとともに、7～8月にかけて市民説明会を開催した。策定時から中身が大きく変わった施設については、地域説明会を開催する予定である。
- 公式ホームページにも説明会の情報を掲載していないのはおかしい。地域の方にもっとプログラムを知ってもらおうようにしないと意味がない。
- 聖ヶ丘地区以外には、出前説明会は開催しないのか。
- ⇒策定時から大きく方向が変わった唐木田、東寺方でも説明会を開催する予定である。説

明は施設全体に関する説明であるが、地域に特化したものとする。

- 存続する施設と廃止する施設が何か。策定時からこれまでに、どのように内容が変わったのか、その理由を伺いたい。
- 更新案は9月に決まってしまう。各論45ページ・聖ヶ丘図書館は「検討」でなく「存続」としてほしい。3回の全体説明会で市民に周知するのは無理であり、もっと住民に説明し、意見を聞く姿勢を持ってほしい。
- 自治会に加入していない人も多い。その方々には、情報が届かないのではないかと。
⇒自治会に入っていない方に情報が行き届かない部分はあると認識している。政策情報誌は全戸配布をしているが、アンケートによると、情報誌を見た人は半分、更に全部読んだ人は半分との結果もあった。できるだけ多くの方に見ていただくよう、自治会の回覧で政策情報誌がもうすぐ回覧されるので見てほしいとのチラシも出した。試行錯誤しながら進めている。
- 連光寺地区ではこのような説明会をしないのか。既存地域でも説明会を開催してほしい。何も知らないうちに、プログラムが決まってしまうようなことはなくしてほしい。
⇒ご意見として承る。市民の皆さんからお声をいただいた上で、説明会を開催していきたい。説明会の周知については、たま広報への掲載はスケジュール的に厳しいが、できる限り周知していきたい。
- ⇒策定時と内容が大きく変わった施設について説明する。庁舎について。耐震性能を備えた本庁舎を敷地内に増築する想定だった。しかし、庁舎の老朽化が進んでいること、平成41年度に施設の耐用年数である60年を迎えることから、建替えの方向とした。
- ⇒健康センターと関戸・一ノ宮コミュニティセンターについて。健康センターは、防災拠点となる庁舎を強化する必要があることから、健康センターのスタッフを庁舎内に配置し強化する想定だった。移転は庁舎の建替えとあわせて検討する方向になった。また、コミュニティセンターは改修を行い、将来的な建物の更新については、庁舎の建替え検討にあわせて検討することとなった。
- ⇒図書館本館について。策定当時は旧管路収集センター跡地への移転を想定していたが、多摩アカデミーヒルズ用地の一部と交換して整備する方向で検討することとなった。多摩センター周辺地域と一体で計画を進めている。
- ⇒パルテノン多摩について。策定当初は、大規模改修時にPFI手法による改修を検討するとしていたが、検討の結果、市の直接工事とし、改修費用には都市計画税を充当することとなった。現在、基本計画策定委員会で検討している。
- その考え方はおかしい。当初の行動プログラムの説明では、公共施設を維持し続けるのは難しいので、施設を縮減していくとの説明だった。その際には、各施設がどのような機能かは検討してない、そのような資料はないとの話を聞いた。図書館は知の宝庫であり、更に発展させるべき施設なのに、地域包括支援センターの機能を持たせるのはおかしい。包括支援センターの機能は複合館、コミュニティセンターで行うべきものである。
- 行動プログラムの目標額90億円に対し、効果額は34億円。だが、パルテノン多摩に70億円、庁舎、図書館にも多額の費用が掛かる。都市計画税を充当するとの話があったが、市民の負担であることに変わりはない。図書館本館も桜美林学園の話に飛びつくのはお

かしい。図書館、複合館は数億円で利用者は年間 20 万人。パルテノン多摩の改修に多額の費用がかかるのに、大事な地域施設をなくしてしまうという考えはおかしい。

⇒パルテノン多摩の改修は、都市計画税が使える見込みが立ち、ヴィータの土地代などの返済ももうすぐ支払いを終える。パルテノン多摩の利用者は年間約 50 万人で、年間 15 億円程度の経済波及効果が出る見込みがある。また、地域包括支援センター機能の運営にあたっては、図書館職員による対応ではなく、専門スタッフを配置することで想定している。地域図書館は、図書館本館と一体で機能を高めることが必要だと考えている。

○パルテノン多摩を最低限の改修にすると、いくらかかるのか。今後、図書館本館、庁舎、パルテノン多摩も行動プログラムで位置づけているからこそ、市民の意見を広く聞いてほしい。パルテノン多摩は莫大な費用をかけて改修する必要があるのか。利用者約 50 万人の数字はどこから出ているのか。

⇒最低限の改修以外に、天井の強化、バリアフリーにして使いやすくする等の改修が想定されている。9 月末頃に大まかな金額が分かる。東京オリンピック後に改修すればいいとの意見もあるが、施設の劣化が進んでおり、長期休館等の可能性も考えられる。早期に改修したいと考えているが、市民に丁寧に説明しながら進めていきたい。50 万人は財団から報告を受けている数字で、興行に来る方、練習等で利用する人、中には重複している人もいる。

○約 50 万人はいつのデータか。

⇒平成 27 年は全体で約 552,000 人、貸館で約 304,000 人、興行に来た方が約 245,000 人である。

○聖ヶ丘図書館は「検討」ではなく「存続」に修正してほしい。具体的な取組みは「当面現状どおり存続し、」を削除し、文末に「残していきます」と記載してほしい。総論 35 ページの「市へ提出された要請等」の内容は、「地域図書館を残す要請書を出した」と修正してほしい。

⇒市民の皆さんからの要請を受けて結果がどうなって各論に結びついたかも追記する方向で検討している

○パルテノン多摩はソフト面を充実させ、魅力のあるイベント、集客のアップを目指してほしい。

○多摩市は橋が多く、聖ヶ丘の橋は手すりの錆がひどくて危ない状態である。早急に点検し、耐震面も見て改修してほしい。関係部署へ知らせてほしい。

⇒パルテノン多摩の興行・運営については、更なる集客が求められている。魅力ある施設となるよう、市民の皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。

⇒橋、手すりの錆、老朽化については、一定のメンテナンスが必要である。今後、計画的に修繕するよう取り組んでいきたい。道路担当課には報告する。